

試験日 : 2026 年 2 月 23 日 (月)
入試種別 : 外国人留学入学試験(4 月入学)正規留学生 博士後期課程
学部・研究科: 文学研究科 仏教学専攻
科目名 : 文献読解 (パーリ語)

解答又は解答例

1 パーリ語の三蔵に含まれる律蔵 (vinayapiTaka) の「大品 (mahAvagga)」からの出題である。

[日本語訳]

さて、実に、ひとり離れて住する世尊には、以下の様な思考が生起した。

「実に、私が証得したこの法は深遠で、見がたく、理解しがたく、寂靜で、微妙であり、考察しがたく、繊細で、賢者が知り得るものである。しかし、実に、この世の人は、執着を楽しみ、執着を好み、執着を喜んでいる。さらに、実に、執着を楽しみ、執着を好み、執着を喜んでいるこの世の人によっては、此縁性、縁起という道理は見難い。また、実に、すべての意志の止息、すべての執着の排除、渴愛の消滅、貪欲からの離脱、滅や涅槃という道理は非常に見難い。だから、実に、私自身が法を説いたとしても、他の人々が私の説いたことを理解できないなら、この私には疲労があるろう。この私には憂慮があるろう」と。